# 2024大学入学共通テスト
# 出題分析と2025共通テストに向けた新高3生の指導

株式会社ラーンズ

## 国　語

## 第１問　問６（ⅲ）

## 文脈をふまえ、自分の文章に加筆する結論の方針を検討する設問

問６　授業で本文を読んだSさんは、作品鑑賞のあり方について自分の経験を基に考える課題を与えられ、次の【文章】を書いた。その後、Sさんは提出前にこの【文章】を推敲することにした。このことについて、後の(ⅰ)～(ⅲ)の問いに答えよ。

【文章】

本文では現実を鑑賞の対象とすることに注意深くなるよう主張されていた。しかし、ここでは作品を現実世界とつなげて鑑賞することの有効性について自分自身の経験を基に考えてみたい。

小説や映画、漫画やアニメの中には、現実に存在する場所を舞台にした作品が多くある。そのため、私たちは作品を読み終えたり見終わったりした後に、実際に舞台となった場所を訪れることで、現実空間と作品をつなげて鑑賞することができる。

最近、近くの町がある小説の舞台になっていることを知った。私は何度もそこに行ったことがあるが、これまでは何も感じることがなかった。ところが、小説を読んでから訪れてみると、今までと別の見方ができて面白かった。(a)

このように、私たちは、作品世界というフィルターを通じて現実世界をも鑑賞の対象にすることが可能である。(b)

一方で、小説の舞台をめぐり歩いてみたことによって小説のイメージが変わった気もした。(c) 実際の町の印象を織り込んで読んでみることで、作品が新しい姿を見せることもあるのだ。(d) 作品を読んで町を歩くことで、さまざまな発見があった。

(ⅲ)　Sさんは、この【文章】の主張をより明確にするために全体の結論を最終段落として書き加えることにした。そのための方針として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 12 。

① 作品世界をふまえることで現実世界への認識を深めることができるように、自分が生きている現実世界を知るために作品理解は欠かせない。その気づきを基に、作品世界と現実世界が不可分であることに留意して作品を鑑賞する必要があるといった結論を述べる。

② 作品世界と重ね合わせることで現実世界の見方が変わることがあり、それとは逆に、現実世界と重ね合わせることで作品の印象が変わることもある。その気づきを基に、作品と現実世界の鑑賞のあり方は相互に作用し得るといった結論を述べる。

③ 現実世界をふまえることで作品世界を別の角度から捉えることができるが、一方で、現実世界を意識せずに作品世界だけを味わうことも有効である。その気づきを基に、読者の鑑賞のあり方によって作品の意味は多様であるといった結論を述べる。

④ 現実世界と重ね合わせることで作品世界の捉え方が変わることがあり、そのことで作品に対する理解がさらに深まることになる。その気づきを基に、作品世界を鑑賞するには現実世界も鑑賞の対象にすることが欠かせないといった結論を述べる。

### 出　題　の　特　徴

第１問は音楽や芸術に関する評論で、問6では作品鑑賞のあり方について考える課題に対して自分が書いた文章を推敲するという言語活動を重視した出題がありました。問６（ⅲ）は、自分の書いた文章に結論を加筆する設問でした。本文と【文章】全体の内容をふまえ、「主張をより明確にするために」という設問文の指示に従って適切な方針を判断する力が求められました。

### 2025共通テストに向けて

第１問の問6は、「書く」という言語活動の過程が意識された設問でした。文脈を正確にふまえたうえで、与えられた設定のなかで考えることが求められます。限られた時間の中で解答できるように、**文章の趣旨や構成をすばやく把握できる読解力を養うことが大切です。**

**2024年度大学入学共通テスト「国語」**

| | |
|---|---|
| 受験者数： | 433,173人 |
| 平均点： | 116.50点 |
| 標準偏差： | 35.33 |

教材のご紹介

【出典】 問題は2024年度大学入学共通テスト（本試験）より。データは「令和6年度大学入学共通テスト 実施結果の概要」（2024年2月5日報道発表）より。

© Learn-S

# 2024大学入学共通テスト
# 出題分析と2025共通テストに向けた新高3生の指導

株式会社ラーンズ

## 教材のご紹介 … 「2025共通テスト対策【実力養成】重要問題演習　現代文」

### 文脈をふまえ、【メモ】に書く「まとめ」の内容を検討する問題

10　伊藤守・阿部潔

問6　Mさんは授業で【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】を読んで、インターネット上の「ソーシャルメディア」について自分の考えを整理するため、次のような【メモ】を作成した。これについて、後の(i)・(ii)の問いに答えよ。

【メモ】

〈1〉共通する要素（どちらも「ソーシャルメディア」と情動という心の働きとの関係を論じている。）

⇩

〈2〉「ソーシャルメディア」についての捉え方の違い

【文章Ⅰ】（「ソーシャルメディア」では、言語が情動という次元で人々を結ぶ媒体となっている。）

【文章Ⅱ】（　X　）

⇩

〈3〉まとめ（　Y　）

(ii)　Mさんは、〈1〉〈2〉を踏まえて「〈3〉まとめ」を書いた。空欄 Y に入る最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 12

① 従来の秩序ある社会的文脈を規定していた現在や過去という境界設定が無効になるソーシャルメディアを介したコミュニケーションでは、人々は情動を刺激する非論理的な言語表現でしか互いの意思疎通が図れない一方、その意思疎通の方法はネット世界でのグローバルな大衆の連帯を容易に実現する。

② ソーシャルメディアを介したコミュニケーションでは時間的・空間的な文脈が崩壊しがちになるので、大勢の人々を一度に集めて結びつけるうえで情動が有効な手段として機能する一方、情動で動員された集団は一時的な衝動に駆られて集まっただけに過ぎない以上、社会全体での存在感は希薄なままであり続ける。

③ 時間や空間を規制する境界が社会的な効力を失うソーシャルメディアを介したコミュニケーションでは、言葉によって意味や論理を伝えるよりも情動に訴えることが多種多彩な人々を組織化するうえで有効である一方、論理以前の激しい強度を特性とした情動による動員は社会を分断させる引き金ともなり得る。

④ ソーシャルメディアを介したコミュニケーションでは、他者を排除するための言説をネット世界に循環させるという新たな政治的局面がインターネットの技術を駆使しながら作り出されている一方、情動への訴えかけを契機とした大衆の連帯によって社会の政治的な分断を修復しようとする動きも窺える。

## 解答解説

**こう解く！**　「情動」についてそれぞれの文章での捉え方を読み取る。

**手順1**　【情動】に関して【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】に共通する見方を確認する。

【文章Ⅰ】の 3 段落と 4 段落では、デジタル化したネットワーク環境において「情動や感情を刺激するコミュニケーション戦略がこれまで以上に組織化されている」ことや「挑発的な語句の反復によって情動や感情を刺激するメッセージの力を強化」していることが述べられている。そして、【文章Ⅱ】の 3 段落でもデジタルネットワークの世界では「情動をひとつの共通項」として「多種多彩な人々」に「有機的／組織的にコミュニケーションを成立させる」とある。つまり、【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】はともに、情動に訴えかける言説が人々を結びつけるコミュニケーションのあり方として有効に機能していることを語っているのである。

**手順2**　**手順1**で確認した情動に関する見方に加えて、【文章Ⅱ】では情動の負の側面という観点が加えられていることを確認する。

【文章Ⅱ】 5 段落の最終文で、「ネットを駆使した情動動員には他者への攻撃や排除を内包した暴力の契機が見え隠れする」と述べながら、筆者は情動が人を結びつける反面、社会的な分断を招く暴力性を併せもっていることに警鐘を鳴らしている。したがって【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】のまとめとしては、「情動に訴える言説」が社会にもたらす連帯と分断の二つの側面を軸として作成された文章がふさわしい。

▼以上より、③が正解。

▼**本文確認**でチェック！

定価1,280円（税込み）

**解答の根拠がわかる解答解説で解き方と手順を習得し、3年生2学期からの本格的な実戦演習へ**

**「2025共通テスト対策【実力完成】直前演習　国語」（2024年6月発刊）**

© Learn-S